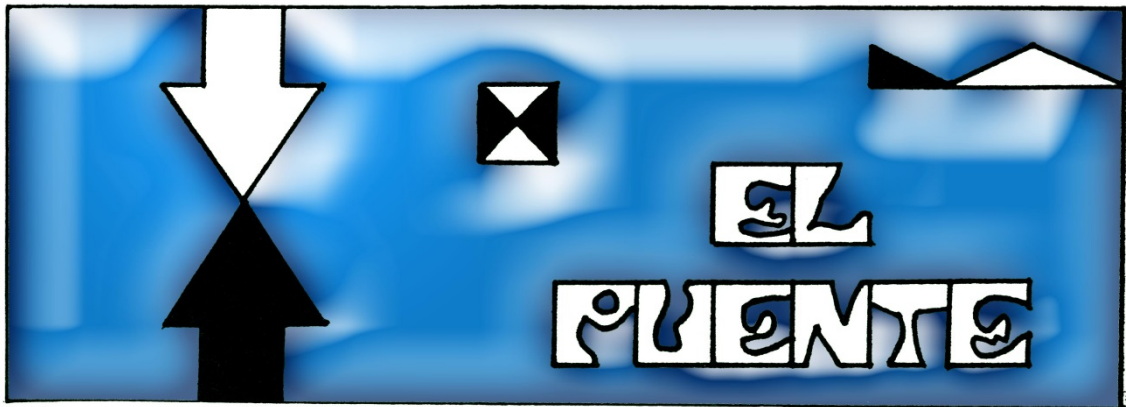




タイトルデザイン 佐藤良助氏

エル プエンテ（橋）秦野市立図書館報

No.35（秩父夕暮歌碑特集）

2008. 6

「奥秩父を訪ねて」

杉山頼子

四月二十二日、秦野市役所を七時半に出発、奥秩父へ向かった。

事前調査によると、往路一七〇キロ、四時間半を要するというのでいささか身がまえたが、なめらかな運転ぶりに全く疲れを感じることはなかった。カーナビの案内をも利用しつつ、先ず第一の目的地である小鹿野町役場を経て、両神の「出みづがはあからにぎりてながれたり つちよりにじはわきたちにけり」の歌碑に到達したのは十二時半頃であった。

歌碑は高さ七十センチ、巾一一〇センチの輝緑凝灰岩・台石は秩父石ということであった。傍らに、夕暮が大正八年、父から受けついだ関東木材合資会社社長としてこの滝前の地に起居し、森林開発事業に励みつつ、文化・産業に貢献したことを称える説明掲

示板が立てられていた。

歌碑は夕暮の自筆の書、大正九年の作とのこと。昭和五十一年十一月両神村歌碑建設委員会の建立である。



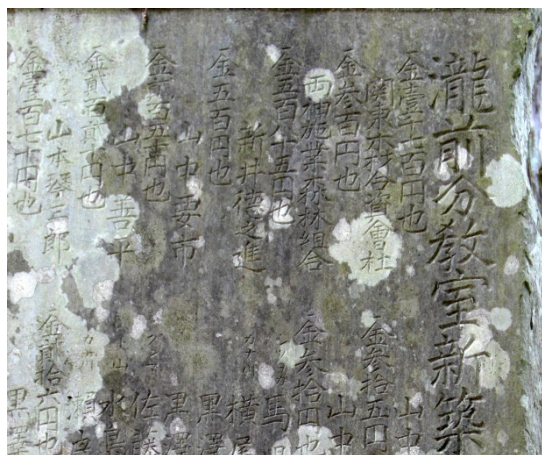
滝前の碑

秦野の地をはるか離れた奥秩父の地に、このような足跡を遺した夕暮の生涯もまた語り継がれるべきことと、改めて実感した。

あたりは、せせらぎの音につつまれ、曲りくねった道に沿って清流も眺められた。

なお、当時の従業員子弟の教育のた

めに建てられたという滝前分校跡には、大正十一年の建設記念碑があり、「新築費寄附者」の筆頭に関東木材合資会社の名が確認できる。



滝前分校跡の建設記念碑（拡大）

次に訪ねたのは、旧大滝村落合にある御嶽普寛神社境内の歌碑。

「山原にひと家居して子をなして
老いゆくみればいのちいとほし」

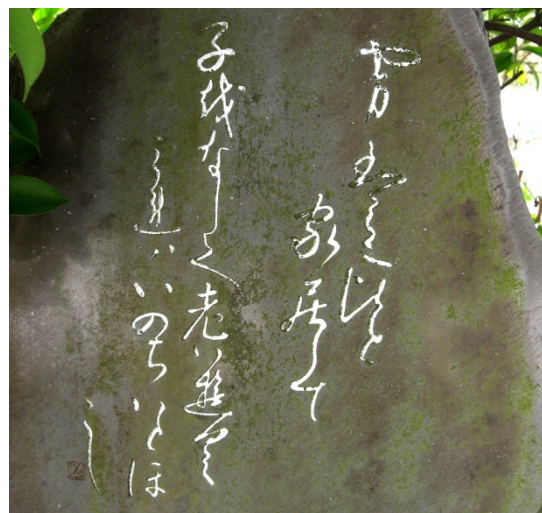
秩父黒曜石の高さ八十六センチ、巾一〇五センチのもの。これも大正九年の作という。碑の文字は夕暮の自筆色紙によるとのこと。



普寛神社境内歌碑

建立は昭和五十九年「青天」の同人でここ普寛神社の宮司木村普侯氏と

ある。すぐ隣に並んで副碑が建ち、説明文の上部にこの碑文を書いた山中義一氏によるものであろう、流麗な変体仮名で「や万磐^{やまはらに}らニ」の歌が刻まれているのも印象的であった。



普寛神社境内歌碑副碑（部分）

そしていよいよ第三の目的地、夕暮キャンプ場へと向かった。山道は曲りくねり、運転は極めてむづかしかったにちがいない。

マイクロバスがようやく通れるほどの道をたどって、夕暮キャンプ場につく。今はシーズンオフなので人影もないが、夏季には開店するであろう店らしきものも散在している。

キャンプ場をやや上った所に
「山を開き土を平坦^{なだ}して建てし工場
その隅にしろし栃の太幹」
の碑があった。（大正十二年天然更新歌稿）

平成二年大滝村により建立され、山中義一氏の揮毫による。肉太で読みやすい文字で刻まれてあった。（碑は高

さ一四〇センチ、巾二五〇センチの安山岩である)



夕暮キャンプ場歌碑

副碑には、歌人夕暮の生涯を称える文が同氏によって記されており、傍には栃の木も植えられてあったが想像した程太い木ではなかった。



副碑と栃の木

そして、更に驚いたのは、道をへだ

てて見上げる程の高所に、夕暮夫妻が疎開をして、昭和二十年四月からしばらくを住いとなしたという建物が残っていたことである。



夕暮夫妻が疎開し、住まった建物

坂の途中に、夕暮が、当時、道下の山本琴三郎宅に、帯を解きながら風呂を貰いに降りていったという「帯解坂」の小さな看板があり、ここからは立入禁止のロープがはられてあった。



帯解坂

折しもキャンプ場の管理のために来場されていた方に挨拶したところその土地の所有者ということで、夕暮生誕の地秦野から来たことを告げると、快く「家の中に入って見てもよい」

と言って下さった。

何かに縋らなければ登れない様な急坂を、息をはずませながら上り、住居跡を拝見した。

外壁も建具もくずれ、荒れるにまかせた建物ではあったが間取りとか障子などはそのまま残っていた。その家の前に立つと入川溪谷の水音が絶え間なく聞こえ、六十年前の夕暮は日がな一日この音につつまれて生活をしていたのかと感無量であった。



入川溪谷

最後に、これはおまけの見学であったが、帰路、雁坂トンネル～御坂峠を経て山中湖文学の森公園内、文学の小径にある夕暮歌碑を見た。

「富士風ひようびようと吹き

凍りたる

湖のもなかに波青くあがる」

(＊歌碑では「青くあかく」)



山中湖文学の森公園内文学の小径の歌碑

説明文に「酒匂川の水源地帯を訪れる途中の大正七年三月初旬、『風荒き山中湖を馬に行く』とあり、」「一時、口語自由律短歌を提唱する。のちに、定型に復帰するが、つねに老成を拒否した歌人として有名(平成十年三月)」とある。碑は緑色がかった自然石であり、台石がないためやや小ぶりに感じられたが、レンガを敷きつめた散策路の傍に建っているので、あえて台石をつけなかったのかも知れないと思ってみた。

あとは一路、秦野へ。市役所に帰りついたのは十九時十二分。おおよそ十二時間の旅であった。

この小文を執筆するにあたり

- ・小鹿野町アクセスマップ
- ・大滝村溪流観光案内図
- ・村岡嘉子著『夕暮歌碑めぐり』を参照した。

EL PUENTE 秦野市立図書館報 No.35 (秩父夕暮歌碑特集)

発行日 2008年(平成20年)6月1日

編集発行 〒257-0015 秦野市平沢94-1 電話 0463-81-7012

秦野市立図書館